

**2021年度 高等学院同窓会学術研究奨励金
研究成果報告書概要（WEB 公開用）**

高等学院長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [密田 創太]

学年・組・番号 [3年 A組 20番]

研究課題： 対馬における地政学的リスクと現地における国境認識との関係に関する研究

(英文) A study on the relationship between geopolitical risks in Tsushima and local border perception

研究概要：

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について200～400字で記入してください)

現代における国家や国境のあり方を他の国境地域なども参考にし、どのような問題が生じ得るのかを考察した。そのために越境対馬2021というプログラム名で4泊の対馬及び福岡でのフィールドワークを行うと同時に、高麗大学・延世大学・北京大学・開成高校・京都国際高校と合同でのオンライン対話を実施した。フィールドワークでは、対馬市役所・対馬観光物産協会や島民方々への聞き取りなどを通して対馬の現状について学習し理解を深めることを目的とした。オンライン対話では、韓国と日本それぞれの立場に立って設定された諸問題に対しての討論を行うことによって日韓両国の国境への認識の違いや国民感情、文化などにかんし各々が企画した内容に関して理解を深めることを目的とした。

研究成果：

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について200～400字で記入してください)

対馬での巡検を経て日韓関係の悪化や新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響で変化した社会の形態を目の当たりにした。巡検では主に、市役所や観光関連の方々にお話を伺ったが、その中で特に強調されていたものが「夢のような時間だった」という言葉だ。観光客が激減してしまった現在において観光客がいることが当たり前になってしまっている社会に対応した空虚な空間が対馬では広がっており、まさに「夢のあと」のような状態であった。これらの経験をもとに対馬の将来のあり方について考えさせられると共に、観光業に過度に依存している都市の将来についてそのあり方についても対馬の例を参考として研究の余地があると感じた。今後の展望として、「越境対馬」を継続するにあたって新型コロナウイルスの感染拡大が収束したのちに観光客が再び戻ってくることが予想されるが、対馬の社会がそれによってどのように変化するかについて研究していきたい。

研究者：(以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 3A 密田創太

研究分担者 3H 木谷翔太 3H 井口未来翔 3G 深作広太郎

3F 栗原亜沙土 3F 西嶋瞬

担当教諭 柿沼亮介 (受給額： 30,000円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名がWEBページ上で公開されることに同意します
(次のページに続きます)

研究成果写真：

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)



以上